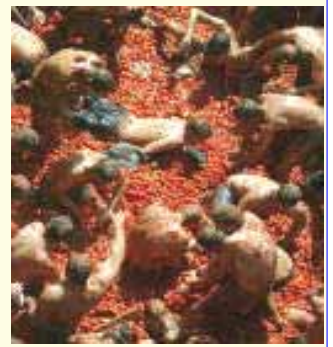


『武勇伝と文化人類学と宮沢賢治』 の関係



皆様、新年会お疲れ様でした。タカス宴会部長の最高の笑顔で始まった今年の新年会も、またまた色々な、**武勇伝、武勇伝、武勇、デندنデندن レッコー！**と言う感じで冷や汗たらたらでありました。

冷ややかにご批判される方々も当然いらっしゃると思いますが、1年を通してウエス1切れすら無駄にせず再生使用して、最後に床を磨くまで使いきり、神経をすり減らし、粉塵まみれになりながら安全作業に邁進している我々の**『ハレの舞台』**は誰になんとわれようと三百年は続け、岡崎の無形文化財にしていく覚悟です。みなさん安心してご参加ください。岸和田だんじりの神輿が**『危ないから』**という名目で市の条例で禁止になってしまうような世の中が到来しない限りはガンバリます。

祭りと言うものは本来、非生産的な無駄なものと考えられがちですが、文化人類学的にえらそうに言わせていただければ、364日間の生産的の日常を背後で支える必要不可欠残り1日間の行事であると言われております。

気を使って気を使って生きている日常の**『気枯れ』**状態を非日常的な価値への転換を図ることによって、人間本来の持つ元気さ**『ハレ』**状態に戻す装置と言っても過言ではありません。

突然町じゅうでトマトの投げあいを始めるスペインのトマト祭り。

巨木にまたがり安全帯(笑)もしないで山の斜面を滑り落ちる、諏訪大社の御柱祭り。

商店街のシャッターや壁を壊しまくって駆け抜ける岸和田だんじりの神輿。

そして自分の店が壊れているのになぜかニヤニヤしている店のおじさん。本来ならレッドカード何枚切られるかわからないようなことが平然と行われている風景。そして何よりすごいのが祭りが終わるとまるで何事も無かったかのように日常の生活に満足げにそそくさと戻っていく人々の意識。



我々の祭りも、大の大人が**キティーちゃんのカッコを**していたり**仮面ライダーの格好**をしていたりはするが、宴会場の外に並べられたスリッパはなぜかいつもキッチリそろっていて、出された料理は残さず食べ、忘れ物もゴミもチリー一つ無く、温かい笑顔で配膳係の方達から見送られて宴会場を後にするようなプロの意識集団でありたい。

事件が起こったのは深夜1時過ぎ。1名転倒。(詳細省略)介護必要。この緊急事態に忍者のようにすばやく適切な対応をした者3名、石川、井上、三沢。石川アキラはクラーク・ケントだと薄々気づいていたので納得。井上さんは兎平犯科帳だからこれも納得。驚いたのは三沢さん。さっきまでレーザーラモンHGの格好をしてげらげら笑いながらガンガン飲んでいたので、一瞬でテキパキとみんなに指示をするリーダーに変身していた。『場』に飲まれていないのだ。**『いま、ここに意識がある者特有の身のこなし。『こういうのをテクア魂と呼びたい！』』**と思った。

作業現場においても同じ事が言える。

『こんな現場やってられないよ~』と汗だくで言いながらもどこか**目が笑っている**、シートが敷かれ**道具がきちんと**並んでいる。

困難な現場をリーダーである自分への挑戦と位置付けているのだろう。一緒に作業している人にも伝染して、悲惨な現場の割には**みんなどこか明るく和気あいあいとして楽しそう**。パトロールをしているとこういう現場に出会う。こういう現場は、どんなにたくさんの安全管理チェックシートを使用して作業している現場よりも実質、安全とを感じる。そういう時、安全は人、人、人、人がすべてとを感じる。

『いま、この心、優しければ万能なり』。

デクノボー集団で、いざと言う時は人の役に立てる心優しき安全集団を目指したい。三沢さん、お手本ありがとうございました。

『雨二モマケズ』『風二モマケズ』頑張ってください。感謝！

羽原篤史



P.S 田中さんは三谷温泉から歩いて帰ってしまいました。 **武勇伝、武勇伝、武勇、デندنデندن**また来年！さようなら。

